

非核・いしかわ

2015年12月20日 月刊第209号 発行/非核の政府を求める石川の会

事務局/石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町28-8 TEL076-251-0014
郵便振替口座 00760-0-15689 会報込年会費 3000円

非核五項目

- ① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
- ② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1面 「憲法の危機」小林節講演要旨	4面 「はだしのゲン」を白山市小中学校に寄贈 〈リレーエッセー〉	6面 リレーエッセーが2巡目に 7面 独標より：戦後70年目の今	編集部
2面 サウンドパレード in 金沢	「被爆体験」の継承とは 池田治夫	8面 被爆者が描いた体験画展	山口修治
3面 戦争法廃止で日本共産党と懇談 被爆70周年 世界核被害フォーラムの参 加報告 江守道子	5面 非核平和の自治体づくり 「元号」と私 中村昭一	絵手紙コーナー 非核平和・行事予定	中田喜重 家 正子



選挙での野党共闘を強調された
講師の小林節さん

◆講演要旨◆ 演題 憲法の危機

慶応義塾大学名誉教授
小林節

先の国会で安倍政権が戦争法案（安保関連法案）を強行可決したのは、小選挙区制の歪みとはいえ、昨年暮れの総選挙で自民党が大勝したからである。戦争法廃止を求めてシールズやママの会、学者の会などが運動を継続しているが、要は選挙で勝たなければ戦争法の発動を阻止し、廃止することができない。

政治の任務は、国民を幸福にすることである。幸福の条件は、①自由であること、②豊かであること、③平和であること、この三つは政治学の常識である。

安倍政権が二〇一三年一二月に強行成立させた特定秘密保護法はこの条件に明らかに反している。またアベノミックスの「新三本の矢」（国民総生産六〇〇兆円達成、希望出生率一・八の実現、介護離職ゼロを目指す）も具体性がなく、いずれも実現困難である。

このような安倍独裁政治から国民が主権を取り戻さなければならぬ。それはできる。自民・公明の選挙協力を学ぶことである。

来年七月の参議院選挙は現行の選挙制度のもとで行われる。戦争法廃止で一致する野党が「一人区」で統一候補を立てることができれば、野党の得票率四割台が五割台に上がり、与党の得票率四割台が三割台に下がること（次頁に続く）

「会員エッセー集」を発行

会員には一冊進呈致します。

（関連記事六面）



花鳥風月

師走にふり返ると安保法制をはじめ沖繩、TPP、マイナンバーなど今年の激動を実感する。高浜原発運転差止の福井地裁の仮処分は司法が現実

に差し止めて画期的だった。それは昨年の大飯原発運転差止判決で人格権の価値が高らかに宣言され、経済的活動の自由はこれよりも劣位に置かれると断じたことが大きい▼現下の情勢の中で流行語大賞も政治語が並んだのは言わば必然。しかし問題は民主主義の質だ。持続的で明確な意志表明が求められる。しかしまだ旗幟鮮明でない立場も多い。これはどういうことか？▼他者との対話で意外と出くわすのが「イデオロギー」という懐かしい言葉だ。自分と区別するために使うのだから差別的にも響く。これを浴びるとグラツときかねない。「気がついてるけど」：躊躇の壁を突破できない方々が使いたがるが、ここが踏ん張り時だ▼ブレイクスルー（breakthrough＝突破と躍進）は大義との矛盾によって起こりうる。参院選を希望の節目とするのは国民の責務だろう。既に死に体の「もんじゅ」に三行半を突きつけるのみならず、従来の常識が非常識となり、弁証法的発展による明るい未来。これはこの上なく痛快だ。天災ではないのだから。（中）

は十分予測できる。複数区や比例区はそれぞれの政党が頑張ればよい。全国で三二ある「一人区」で野党共闘が勝利すれば、戦争法の発動を阻止し、廃止を展望できる。

民主党政権に失望した人は多い。しかし、福島原発事故への対応や辺野古新基地問題はこれまで何十年も政権を担ってきた自民党が積み残した問題で、自民党の不始末、後始末を不慣れた民主党政権が右往左往したものである。そろそろ許してはどうか(笑)。絶対に安倍政権よりはましですよ。

共産党と連携することについて「恐い」という意見があるが、私は志位和夫委員長とも懇談したが、決して「恐い」ことはない(笑)。全部誠実に答えてくれた。

戦争法廃止の「国民連合政府」で一致する野党が国政選挙で選挙協力しよう、と呼びかけた共産党と他の野党がこの機会に共闘することを期待する。(文責 非核いしかわ編集部)

◎本稿は一二月三日、金沢市文化ホールでの小林節氏の講演要旨の一部(後半の戦争法廃止の展望)です。主催は九条の会・石川ネット、戦争をさせない石川の会など「戦争法廃止！憲法改悪阻止！」を呼びかける八団体。

サウンドパレード in 金沢

私たちの未来は、 私たちが決める

弁護士 新谷愛子



みなさんこんにちは、私は兼六園の傍で弁護士デビューしてもうすぐ二年になります。今日の晴れた日にサウンドデモに参加できてとてもうれいす。

司法試験では憲法は必須科目で私たちは憲法による立憲主義を学んできました。立憲主義とは何か、国や国家権力は憲法を破つてはいけない、憲法に基づいて国をコントロールしていくことが立憲主義です。

九月に安保法制が可決されましたが、全国各地でたくさん抗議の声が上がりました。私が所属している金沢弁護士会でもサウンドデモのみなさんにも協力いただき、何度も街頭宣伝

等のイベントやシンポジウムを行いました。

安保法制は憲法九条に反する、立憲主義違反のとてもない法律です。内容もそうですが、憲法改正することなく憲法違反の法律を強行に採決してしまった自民党の態度は絶対に許すことはできません。

安保法制は可決されてしまいました。これが私たちの希望が失われたわけではありません。今日のサウンドデモにはたくさん子どもたちも来てくれています。すごくうれしいです。

フランスの同時多発テロから一週間経ちました。テロの後、フェイスブックの呼びかけでフランスの国旗を掲げてフランスを応援しようという動きがすごく高まりました。フランス政府はISへの攻撃を強めて、戦争状態になったと表明しています。フランスで起っていることは安保法制後の日本が予定していることと同じです。フランスのパリで起っていることはこの日本や金沢で起ってもおかしくないと思います。私の友人たちもテロや戦争の動きを知り、少しずつ政治のことに関心を持ち始めています。

デモに参加するには勇気がいりますが、いま国民一人ひとりが「大丈夫かな、日本は？」「戦争って大丈夫？」

と少しずつ気づき始めています。みなさんもぜひ隣の人と安保法制や日本の未来について会話しましょう。あきらめずにやってみましょう。

違う意見があることはいいことです。反対派、賛成派、どちらの意見も委縮することなく自由に言い合って、良い方向に行けるよう、日本が戦争のない平和主義を守っていけるようみんなで頑張りましょう。

◎本稿は一月二二日、いしかわ四高記念公園で開かれた安保法制に反対するサウンド・パレード集会での新谷愛子弁護士のスピーチです。



香林坊・片町界限にてアピール行進

日本共産党からの申し入れにより 戦争法廃止について意見交換

非核石川の会常任世話人会

一月一七日(火)夜、城北歯科三階会議室にて、日本共産党が提案した『戦争法(安全法制)廃止の国民連合政府』の実現を呼びかけます」の件で日本共産党石川県委員会から申し入れがあり、懇談を行いました。石川県委員会から秋元邦宏委員長と尾西洋子常任委員、非核石川の会からは井上英夫、五十嵐正博両代表世話人と常任世話人八人が出席しました。

最初に秋元委員長から「よびかけ」の趣旨について丁寧に説明がされ、意見交換しました。個々には、『国民・・・』ではなく『市民・・・』ではないか」とか、「他団体との懇談の様子は」などの意見も出されましたが、全体としては提案の趣旨に賛同し、今後の動きに期待するとの表明がされました。

最後に戦争させない・9条壊すな！総がかり行動委員会が緊急に呼びかけた二〇〇〇万目標の「戦争法の廃止を求める統一署名」について、その運動の一角を担って取扱い団体として広く呼びかけることで一致しました。

医療者の責務を実感した 世界核被害者フォーラム

江守道子

広島・長崎被爆七〇周年を記念した世界核被害者フォーラム「ヒロシマから世界へ届けよう核被害者の声を！核のない未来を！」と題した国際フォーラムに初めて参加しました。

初日の基調講演は、ICAN&IPPNW(核戦争防止国際医師会議)共同代表で、かつて金沢でも講演されたティルマン・ラフ博士による「WECAN:健全な持続可能な未来は核なしで初めて可能だ」で始まりました。特に強調されていたのは、「核兵器が世界中の健康・福祉への最大、かつ直接の脅威。九月二五日現在、核廃絶



11月21日~23日、広島国際会議場で開かれた
世界核被害フォーラムにて、真ん中が筆者

の人道的宣言に一一七カ国の政府が署名している。世界中に存在する一五七〇〇発の核兵器を禁止、廃絶するには、核兵器禁止のための交渉を行うことが急務であり、全ての国が妨害なく参加できることが重要。そして、この核兵器廃絶の動きを止めることは、もはや不可能であり核保有国の参加のいかんを問わず完了することができるといふ力強い言葉が印象的でした。

二日目の基調講演も金沢で講演された元京都大学原子炉実験所助教小出裕章先生の「あらゆる核利用は、言われなき犠牲をしわ寄せする」でした。

核兵器は、戦闘員、非戦闘員を無差別に殺傷する兵器であり、ごく短時間に死に追いやられ、被爆者となる恐ろしい兵器。日本は、唯一の被爆国と言われて久しいが、実は被ばくは世界中で発生している。

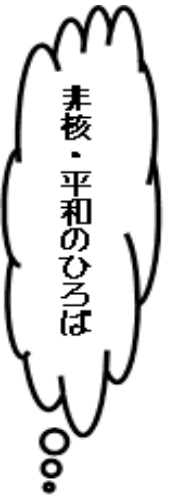
例えば、原爆の原料であるウランは、先住民として虐げられた人々の住むウラン鉱山から採掘。彼らは、労働者として、周辺住民として被曝。原爆材のプルトニウムを取り出す再処理工場でも放射能汚染で多数の人が被曝。核実験場では多数の兵士、その風下の地域住民の被曝。また、核の平和

利用と云いつつ世界に広がる原子力発電所でもスリーマイル島、チェルノブイリそして福島原発事故と上げればキリがない。今なお福島では、事故の収束の目安や方法もない。多くの住民や原発労働者は被曝し続けている。・・・暗澹とした気持ちになりました。

この間、広島、長崎の被爆者や、核実験、ウラン採掘現場などの被害者が、それぞれの実態報告を行ない、「核実験」被害の討論では、米国の核実験が繰り返された太平洋マーシャル諸島や、英国の核実験場となったオーストラリアなどの被害者が現状を報告。中でも、米国ユタ州の作家メアリー・デイクソンさん(六〇歳)は、隣接するネバダ州での核実験による放射性降下物が米国内で広がった状況を説明。自身も甲状腺がんを患い「悲劇を知私たちが、ともに力を合わせるべきだ」と訴えていたのが印象的でした。

私たち医師、歯科医師は科学者として、また診療者として「核や放射能」の非人道性や悲惨さを、より多くの人々に知らせていく責務があると実感したフォーラムでした。

(核戦争を防止する石川医師の会副代表世話人)



**白山市立光野中学校、鳥越小学校に
『はだしのゲン』を寄贈**

小野栄子

今年、平和首長会議に加盟した白山市への寄贈を計画し、白山市教育委員会を通じて小学校一九校、中学校九校への寄贈希望調査を実施しました。調査の結果、『はだしのゲン』を所蔵していなかった学校は三校、そのうち、光野中学校と鳥越小学校の二校から寄贈希望が寄せられ、一月五日に各学校に寄贈してきました。

光野中学校では、以前所蔵していた『はだしのゲン』は多くの生徒に愛読され、ぼろぼろになってしまったため、廃棄されたそうです。そこで今回、寄



光野中学校・吉川滋校長に寄贈する
白崎良明反核医師の会代表(右)

贈を希望されたとのこと。近年の状況としては、「広島への修学旅行」は費用の面で難しく、取りやめとなったこと、石川県で広く行われてきた「八月六日の全校登校日」は、毎年、北信越大会が重なってしまうため実施されていないこと等をお聞きしました。

自主・自立を教育目標に掲げ、「自問清掃」を実践している光野中学校。今年の全日本中学校バレーボール選手権大会で初優勝し、生徒さんの活躍も眩しい限り。この機会に、『はだしのゲン』を多くの生徒さんに読んでいただき、教育に役立てていただきたいと、吉川滋校長にお願いしてきました。

次に訪問したのは、正面には鳥越城址、校庭からは白山をのぞむ鳥越小学校です。この豊かな環境で、先生と生徒さんがのびのびと生活しているのが印象的でした。校舎に入って早々「神田さくん！」と、同行した神田順一さん(非核の政府を求め石川の会事務局長、核戦争を防止する石川医師の会事務局)を呼ぶのは、今年で結成二〇周年を迎えた「でえげっさあ」の川崎正美先生。松田真由美校長、司書の吉田晴子先生にも同席いただき、和やかに懇談が進みました。

司書の吉田先生がおっしゃるには、戦争の恐ろしさが伝わりやすいと思

われる写真集等は、小学生にとってはその意味するところが理解できず、ふざけて見てしまう子も多いそうです。一方、『はだしのゲン』をふざけて読む子は一人もいなかったと言います。

『ゲン』にはストーリーがあり、辛い思いをしながらも仲間と助け合って生きていく姿に、子どもたちは惹かれるのではないかとのことです。

なお、鳥越中学校では、広島への修学旅行が行われており、事前学習では必ず被爆証言を聞く時間を設けているそうです。また、平和記念公園のなかには鳥越中学校が寄贈したベンチもあるとのこと。生徒さんたちは、そのベンチが見学者や市民に愛用されているのを見るのも、楽しみにしているのかもしれない。

(核戦争を防止する石川医師の会事務局)



鳥越小学校・松田真由美校長への
寄贈で県下 65 校目となる

「被爆体験」の継承とは
池田治夫

一〇月、東海地方のある温泉地に愛知、静岡、三重、福井・石川の五県から八名の被爆2世が集まって意見交換する機会があった。自己紹介を兼ねて親の被爆状況と戦後の歩み、そして被爆者の子として思いを出し合った。

「被爆の継承と言うが実体験がないので何も語れない」という戸惑いから話は始まった。

私も自分の体験を「父は軍人で投下直後の広島に救援に入り被爆したが、私が二歳の時に死んだ。軍令入市と云う事実以外は何も話さなかった。被爆者運動に関わる中で被爆症認定申請の聞き取りに同行して同じように軍人として死体処理をした壮絶な体験を聞いた。話せなかったのだと気付いた」と話した。

ある方は「父は最近九〇歳を過ぎて話すようになったが、今でも被爆手帳をとらないと言う。長崎の原爆資料館の地下に大きな書庫があるが、同年代の方の体験記を読んで父の行動と想いを実感した」。ある方は「被爆2世の検診時に、診察室に入ったところ医

非核石川の会 リレーエッセー

師から『被爆者じゃないのか。2世検診なんて過剰診療だ』と言われてカチンと来た。それから被爆2世って何なのか？と考えるようになった。ある方は「広島で初めて燈籠流しをした。死んだ父と自分の名前を書き込んだ時、どんな想いだっただのかと涙がこみ上げてきた」等々とそれぞれの思いを出し合い、被爆者の子に被爆2世ではないことを確認した。

親から聞いた体験はベースだが、もっと多くの被爆者の話を聞いたり読んだりして自分のものにする、ヒロシマ・ナガサキの被爆地に立つて街を歩いたり建物に入ったりして親の体験を実感できるような機会があったら一体感が増すのではないか、人の前で報告したり書いたりという営みがあるって被爆2世になれるのではないか、ということだった。

被爆七〇周年の今年は慰霊事業が各地で取り組まれたが、八〇周年はないと言われている。全国的には役員のなり手がなく県組織が解散したり、事実上動かなくなったりしているところも多い。熱心な役員さんでも、自分の子には言えないとこぼす。「被爆体験と運動の継承は喫緊の課題」と被団協の方針には謳っているが、全国で2

世の会はやっと二一組織になったところで、これが実情である。

一〇月二〇日、被団協2世委員会では、この一年間の取り組みを通じてやっとな横の交流が出来るようになってきていると前面と評価し、実態調査アンケートを提案した。調査の目的として、声をあげる2世を一人でも多く探し出すのに役立てること、調査方法としては各県の実情に応じて取り組んでもらうしかないが、親から子に手渡すこと自体に意義あることなのだからと追加することとなった。運動の継承の難しさを思う。

平和首長会議への加盟促進による「非核平和の自治体づくり」

神田順一

広島市と長崎市が中心となり一九八二年に設立した平和首長会議（会長：広島市長 事務局：公益財団法人広島平和文化センター）には二〇一五年一月一日現在、一六一カ国・地域の六九四〇都市が加盟しており、国内の加盟都市は全市区町村の九二・三％に当たる一六〇七カ所に達しています。

平和首長会議は、二〇二〇年までに核兵器廃絶を目指す行動指針「二〇二

〇ビジョン（核兵器廃絶のための緊急行動）」を策定し、世界の都市、市民、NGO等と連携しながら、核兵器廃絶に向けた様々な活動を展開しています。特に二〇一〇年からは、「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める署名活動を進めています。

二〇一三年八月広島市で開かれた第八回平和首長会議総会で策定された『行動計画（二〇一三年―二〇一七年）』では、平和首長会議が果たす役割は、「核兵器廃絶に向けて各国政府に具体的な対応を促す市民の声をさらに大きくし、核兵器廃絶の国際世論を拡大することである。そのためには、加盟都市のさらなる拡大と都市・地域・世界のそれぞれのレベルでの主体的・自主的な活動の展開が必要である」と記載されています。

非核の政府を求める石川の会（以下、非核石川の会）では、県内自治体での非核平和施策の拡充を求めて二〇一二年から毎年実施しているアンケート調査結果にもとづき、特色ある平和事業を取材して、会報「非核・いしかわ」やホームページを通じて情報提供しています。

このような非核石川の会の取り組みと、平和首長会議事務局からの働きかけが相まって、県内の加盟自治体は

二〇一一年までは五カ所だけだったが、二〇一二年以降新たに九自治体が加盟し、加盟率は七八・九％になりました。特に被爆七〇年の今年、白山市、羽咋市、宝達志水町、能登町、輪島市と一挙に五カ所増えました。核兵器廃絶と平和を願う自治体が着実に増えていることに未来への希望があります。

非核石川の会の先達たちが県下全ての地方議会に働きかけて、全自治体で「非核・平和自治体宣言」を達成した経験に学び、全自治体の平和首長会議への加盟促進による主体的・自主的な「非核平和の自治体づくり」を目指していきたい。

「元号」と私

中村昭一

中学生の頃、歴史の勉強をしていて気になり始めたのが「元号」である。前後関係や国際関係を理解するのに不便。何故これを使うのか調べたくなつたのが、そもそもの始まり。

以来、私なりに考え、①歴史的連続性がなく、②国際性がなく、③君主制の残滓、ということ自分でしては基本的に使わないことにした。大学生だった。

しかし社会生活においては厄介なことに半ば強制される。その度にささやかな抵抗を試みるのだが、如何せん多勢に無勢。いつも仕方なく矛を納めるのだが、それが不愉快だった。今は退職して職場で強要されることもなくなり、「内心の自由」を少しは得た。

先日、辰巳ダム裁判を傍聴したが、判決冒頭にもご登場だ。その段階で気が滅入る。おそらくそれは人の心に枠をはめ、判決内容に影響を与えている。少なくとも全く無関係と言い切れまい。全ての訴訟には日付がいるが、それに限定する必要はない。

思い出されるのは八九年一月の改元だ。私は文集作成を担当していたが、折からの「平成」大ブームに抵抗して大変な思いをした。苦肉の策として、「〽一年目」等の奇妙な表現を使用した。具体的に何と書いたか思い出せないのが悔しい。それからは新聞各紙の日付の記載も気になった。それだけで編集姿勢が浮き上がる。今は殆ど統一されたが、当時の地元有力紙はそれだけを使用していた。これには呆れた。

もう一つは二〇〇〇年間題だ。これはほぼ杞憂に終わったが、逆に紀年法を考え、それを実生活に活かす機会だと思っていた。

このように「元号??」から私は色々なものに疑問を抱くようになった。当然「日の丸」「君が代」「侵略戦争」「戦争責任」にも関心が広がった。今では日本的曖昧さの根本の一つは天皇制だと思っている。不合理で反知性的なものはいずれ克服されねばならない。

今では「元号」は、私の社会的意識を目覚めさせ主権者意識を高めさせてくれたのだ、と思うことにしている。

.....

『会員リレーエッセー』

二巡目のスタートにあたって

非核・いしかわ編集部

記録によると、非核石川の会事務局長をされていました故・森昭さんのお勧めもあって、会報『非核・いしかわ』が新たに集団的な編集体制となったのは、二〇一一年でした。この編集委は四名体制（現在は五名）でスタートしました。毎月開催するコンパクトな編集会議は、効率よく打ち合わせがすすみ、とても楽しい会話で満ちています。

会報の紙面は年間主要企画、時局に沿った特集、会員エッセー、文芸欄、

その他で構成されますが、運動の企画に連動し、非核の世論前進に向け多彩な紙面が求められました。そのためには編集部を強化し、県下を駆け巡る、より一層活力に満ちた『非核・いしかわ』が求められたのです。

会員リレーエッセーは皆様のご厚意で第一六三号より好評・連載され、このたび、『会員エッセー集』として第一巻の刊行となりました。非核・平和運動の一助として生かされますことを願っています。

* * *

今、戦後七〇年を経て、政治・経済・社会のあらゆる面で国民生活の危機は進行し、誰もこのことに無関心でいられない状況があります。

最新号の『非核いしかわ』第二〇八号に既報の『日本平和大会 in 富士山』記事の中で岡山県原水協事務局長・平井昭夫氏は、「いま国連では核兵器廃絶を求める世論が大勢を占めており、核保有国がその気になれば核兵器をなくすことができる。この実現をさまたげているのは唯一の被爆国の日本政府が旗振りしていないからだ。」と述べておられます。

一方、不破哲三氏（日本共産党前議長）の「昔の自民党には幅があった」との会見の報道（産経新聞一月二五

日）で、「…自民党は六〇年前に誕生した。長い変遷を経ているが、全体として世界の資本主義国の中でも異常な特質を持ったまま生まれた極めて例外的な政党だ。その例外は三つあるとして、一つは財界との関係。財界直結が極めて異常。第二の異常は、アメリカとの関係が完全な従属関係にある。三番目の異常は、日本が加わった侵略戦争に最初から根本的な反省をしないまま推移している政党だ」と指摘されています。

自公政権は、先の国会で安保法制を強行し、臨時国会を開かないまま戦争法を推進していますが、この異常は非核・平和にも逆行し、到底許容できるものでありません。

私たちは、非核・平和を現実のものとするために『非核五項目』をはじめ、原発の再稼働停止・即廃炉を含む非核の願い実現にむけて、各界・各層の皆様と連帯し、運動を前進させてゆきます。

非核・いしかわの『リレーエッセー』二巡目のスタートにあたり、新たな課題を語り合う非核・平和の広場としてみなさまの貴重なご意見・ご経験を寄せ頂き、会報が一層発展・充実してゆくことを願っています。

詩人会議かなざわ「独標」より

戦後70年目の今

山口修治

インド アッサム州3636高地
そこは
1944年5月24日
インパール作戦で
父の兄が戦死した場所
父は貧農の次男として生まれ
尋常高等小学校を卒業して
神戸で鋼管口絞工として働き
徴兵されたが戦地に行く前に終戦
そして
兄のかわりに家の跡取りとなった
母は
7人兄弟姉妹の第一子として生まれ
尋常小学校を卒業して
家業の機織りをして
兵器増産で織り機が国に没収され
廃業となり
村の友だちと
兵庫の塚口の軍需工場で働いた
祖母が面会に行き
寄宿舎のひどさにおどろき
むりやり母を連れ帰り
その後には塚口が空襲にあり

友だちは亡くなり
そして終戦

時代と歴史に
ほんろうされた隣村の二人が
その後 縁あって結婚し
戦後六年目に次男として
僕は生まれた

幼い頃 父の母が
戦争が終わって三年ほどは
坂を歩いてくるえけあんちゃん
を何回も見た
目をこするといつも消えていた

と
ふとした時に何回もつぶやき
小さな僕の胸もチクチクした

アジア・太平洋戦争は
日本の侵略戦争で
2000万のアジア諸国の人々と
310万の日本人が犠牲になった
そのことを知ったのは
七転八倒の青春時代を過ごし
夜間の大学に
通うようになってからだった
それまでは
憲法はただのお題目で
交通法規の方が厳しいと思っていた
先生たちが悪いわけではないが

中学校や高校でも
誰も教えてくれなかった

祖母のような人がそんなにいたとは
それも 日本が加害国だったとは
そして

731部隊が捕虜を人体実験にし
慰安婦
耳慣れない言葉と耳ふさぐ行為
日の丸のシミだと隔離された
ハンセン病患者
なんということか

父母や父の兄
船乗りになって
兵隊を戦地に運んだ父の弟
看護婦になって
残留兵を迎えに行った父の妹
我が家の戦争体験を
驚愕の思いで聞き
そして
命をかけ
反戦を貫いた人々がいたことも知り
ようやく僕にもわかった
戦後70年目の今
年明けから4月26日まで
街頭で 訪問して 電話して
戦争反対 平和憲法を守ろう
暮らしと福祉を守ろう
介護で泣く人を無くそう

そんな政治を實現しましょう
と
仲間と共に多くの人に訴えた
そして

組曲『悪魔の飽食』を歌い
金沢駅前の金曜日行動『どいね原発』
6月15日の平和行進に参加し
職場では9と25の日に
朝のサイレント宣伝
地域の人と毎週水曜日の
朝の街頭宣伝

戦争法案反対 と 率直に訴え
そして今 この言葉を紡いでいる

《編集室より》

◎一二月三日、金沢市文化ホールで
『憲法の危機』について講演された小
林節氏（慶応大学名誉教授）は、その
翌日、清瀬市けやきホールでの講演で
「老体に鞭打って、現在、全国を二巡
目で回っています」と述べ、日本の立
憲主義と平和憲法を守るため、一人区
で野党連合の圧勝めざして「参院選ま
でに三巡するつもりです」と語ってお
られました。（日仏共同テレビ局フラ
ンス/m.youtube.com）
私たちも、未来をひらくみんなの政
府をめざして、創意を發揮してこの歴



原爆ドーム



長崎投下五日後の状態
長崎市井樋口町
電車の停留所附近の防空壕の中で

石川県原爆被災者友の会 中田喜重

「被爆者が描いた体験画展」⑮

史的な大運動に参加したいと思いません。この度発行された非核・いしかわ『会員エッセー集』。盛り込まれた私たちの願いが、この大運動へのツールとして活用できればそれに越したことはありません。(一)



金沢医療生協絵手紙班
家 正子

絵手紙コーナー

あなたは、「なんだ、変わったところもない、古い建物じゃないか」と言うかもしれない。私は、あなたにこう言うでしょう。「そうです。あなたの言われる通りです。でも私には、今も噴き出している血に染まった建物に見えるのです。ずっと聞いてください。うめき声、助けを呼ぶ声、生きながら焼かれる声、かぼそい呪詛に似た声。あなたにも、きつと聞こえるでしょう。」

《非核平和・行事予定》

月	日	曜	時	内容	場所
12	23	水・休日	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
1	1	金・休日	10:00	核廃絶署名元旦行動	金沢市尾山神社前
	6	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	9	土	12:00	核廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	17(日)~24(日)				沖縄県宜野湾市長選挙
	19	水	16:00	戦争法廃止・ピーステント	金沢市四高記念公園・中央口
	20	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	26	火	18:00	非核石川の会「会員エッセー集」出版記念祝賀会	KKRホテル金沢
	28	木	18:30	平和団体・新春のつどい(講師 須藤春夫さん)	いしかわ平和と労働会館3階ホール
	31	日	10:30	北陸原水協学校in石川(講師 田中熙巳さん)	金沢市香林坊・教育会館2階集会室
2	3	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	9	火	12:00	核廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	11	木・休日	13:30	「建国記念の日」反対 平和と民主主義を考える集い(講師 田口昭典さん)	金沢市近江町交流プラザ4階集会室
	14	日	13:30	新春社会保障講演会(講師 渡辺治さん)	金沢市労済会館3階ホール
	17	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	19	金	16:00	戦争法廃止・ピーステント	金沢市四高記念公園・中央口
	28(日)~3月1日(火)			3・1ビキニデー 問い合わせ:原水爆禁止石川県協議会へ	静岡県静岡市・焼津市

* 祝日は休日としています * 毎週金曜日18:30 どいね原発アピール行動 金沢駅東口

* 昼デモ 隔週水曜日に行動

* 「戦争法廃止・ピーステント」は、毎月19日(強行可決された日)に、2016年7月参議院選挙の前月まで実施されます